

水道事業体と主要企業の財務諸表の比較を展開

最近の状況

NEWS LETTER第13号をお届けします。新型コロナ問題の日々の状況にはまだ目が離せませんが、約1か月先に迫った米大統領選挙の行方、菅内閣の政策展開に注目が集まっています。こうした中、海外水ビジネス研究会は、WG活動や水道公論のレポート掲載の準備等、着々と活動を進めています。

9月17日に定例会を開催しました

9月17日（木）12時から14時に神田神保町近くの貸会議室で定例会を開催し、会議室に5人、zoomで4人の参加がありました。会議では、工藤さんから主要水道事業体の財務分析をすることになった経緯と財務分析内容の説明と今後予定している作業（続編）について説明がありました。続編は、①2020年3月期の主要水道事業体の財務分析（今回は、2019年3月期で、民間14社の2020年3月期と1年のずれあり）。②比較する民間14社に、ダイキン工業（エアコン世界第1位）とソフトバンクグループ（トヨタに次ぐ大企業）を追加（14社から16社に）。③ヴェオリア、スエズ、テムズウォーター等との比較分析を行うことなどになります。どうぞ、ご期待ください。

水道公論10月号の予定

「海外水ビジネスの要点」シリーズでは、安間匡明さん（土木学会インフラファイナンス研究小委員会委員長）に「ADBのPPP支援業務の概要と水事業PPP案件形成」について寄稿いただきました。「海外水ビジネスの眼」では、「最近の公益事業の動き」を掲載します。



けいとうの花

撮影：2020年7月の夏休みから

定例会・準定例会の計画について

- 海外水ビジネス企業の財務諸表を分析する作業グループのzoom打ち合わせが10月1日（木）20時から
- ZOOM幹事会が10月9日（金）20時から20時40分
- 定例会が10月15日（木）12時から14時。講師は東京ガスの桜井さんで、他の公益事業の動向に関する勉強会（都市ガス編）。会場は、東京駅八重洲口ノースタワーの大和証券本店会議室。ZOOMも併用する。

水道公論コラム原稿を募集しています

字数は1500から1600字、「である調」、ペンネーム（実名は出さず）で原稿を募集しています。連絡は山村まで。